

鎌ヶ谷市 郷土資料館 だより 第55号

目次

- 第24回ミニ展示「オリンピック・パラリンピックと鎌ヶ谷」を開催…1～2
- 郷土資料館この一品⑭……………2
- 郷土資料館令和3年度の事業予定…3
- 資料整理の現場から④……………4

第24回ミニ展示を開催

オリンピック・パラリンピックと鎌ヶ谷 ～1964の思い出・プレイバック～

第24回ミニ展示を7月1日(木)から開催します。今回は「オリンピック・パラリンピックと鎌ヶ谷」がテーマです。本来は昨年夏に開催する予定でしたが、オリンピック東京大会が延期されたことに伴い、展示も今年に繰り延べしたものです。今回の展示では、昭和39年(1964)に開催された前回大会の資料や写真など、貴重なものがもりだくさん。前回大会を知っている皆さんも知らない皆さんも、ぜひこの機会にご覧ください。



大会役員のブレザー

皆さんが集めた資料など展示

郷土資料館では今回のミニ展示開催に当たって、昨年、昭和39年に開催された前回の東京オリンピック・パラリンピック大会の資料提供を広く呼びかけました。その結果、30名を超える市民の皆さんからご寄贈またはお借りすることができました。ご協力いただきありがとうございました。

今回の「第24回ミニ展示」では市民の皆さんが集めた資料、そして聖火ランナーや大会役員として参加された方々の資料などを中心にして、関連資料や写真パネルなどを展示します。この展示をとおして、前回大会の思い出を振り



聖火ランナー

返ってみましょう。

期間 7月1日(木)～9月5日(日)。ただし、
(2ページへ続く)

(1 ページからの続き)



毎週月曜日及び8月24日(火)～26日(木)は休館予定です。なお、オリンピックにかかる祝日の7月22日(木)・23日(金)、8月8日(日)は開館します。

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午

後4時45分までにお願いします)。

会場 郷土資料館2階展示室

新型コロナウイルスへの対応

新型コロナウイルス感染防止のため、来館時にはマスクの着用と受付での入館者票の記入をお願いします。また、来館者が多い場合は入場制限を行う場合があります。最新の情報はホームページ、または郷土資料館☎445-1030へお問い合わせください。なお、今回の展示ではギャラリートークは実施しません。

郷土資料館この一品⑭

台秤(だいばかり)

郷土資料館では市民の方からご寄贈いただいた昔の道具(民具)も展示しています。中には、昭和30～40年代の物もあるので、使ったことがあると、昔を懐かしまれる方もいらっしゃると思います。

今回はそんな民具コーナーから台秤を紹介します。この台秤は高さ77.5cm、幅38.5cm、奥行56cmの茶色に塗装された金属製の重厚な計量器です。台座付近についているプレートには「100kg 弐拾五貫 No. 1233 埼玉」とあり100kgまで量れるようです。柱部分には「東京金属工業株式会社」のプレートがありますが、現存する会社ではないようです。

この台秤は、台に乗せた対象物と重り(分銅)の重さが均衡になるようにして、量りたい物の重さを確認するものです。これには20kg、10kg、5kgの重りとスケール上に5kgの重りがあるので、現状は40kgまで量れます。スケールの先につり下がった皿に、これらの重りをのせて大体のバランスを取った後にスケール上の重りをスライドさせ、微調整して均衡を保って重さを量ります。台秤はお米屋さんなど、重量のあるものを量り売りする店先で見かけたことのある方もいるのではない



展示室の台秤

でしょうか。小型のものは、お肉屋さんなど食材を量り売りするお店で使われていました。

やがて秤はバネを利用して、乗せるだけで針が重さを表示する簡単なものとなり、現在はデジタル表示されるものがほとんどです。

しかし、現在もボクシングの計量はこの形のもが使われております。バネ式は量る地域の緯度等によって重力の影響を受けるため、厳密、公正が求められる体重計量では重さの均衡を保つだけの単純な方法であることから、余計な影響を受けないこちらの方法がとられているということです。

最近では、パッケージされたものではなく、必要なものを必要なだけ買う、余計な容器やごみを増やさないという量り売りが見直されているようです。こうした民具は、昔からのやり方を改めて見直すという意味でも大切な資料といえます。

郷土資料館 令和3年度の事業予定

今年度、郷土資料館で予定している各事業を紹介します。なお、各事業の内容や開催日等は予定であり、特に新型コロナウイルスの蔓延状況によっては中止や変更になる場合もあります。詳細は、その都度「広報かまがや」や市ホームページなどでお知らせします。

◆ 展 示

①第24回ミニ展示「オリンピック・パラリンピックと鎌ヶ谷～1964の思い出・プレイバック～」

昭和39年(1964)の東京オリンピック大会を、市民の皆さんから寄贈またはお借りした資料を中心に展示します。

期間 7月1日(木)～9月5日(日)

②令和3年度企画展「KAMAGAYA1971～市になったころの鎌ヶ谷/市制50周年記念～(仮題)」

鎌ヶ谷が町から市に昇格した昭和46年(1971)にスポットをあて、当時の様子を語る写真や歴史資料を展示します。

期間 9月～12月



企画展では50年前の鎌ヶ谷に会える

③新資料展示「新発見! 鎌ヶ谷のたからもの」

令和2年度の調査によって確認・発見した埋蔵文化財や、歴史・民俗資料を紹介します。

期間 令和4年1月～3月

◆ 教室・講座

①郷土資料館セミナー

「東葛飾地方の歴史③～近・現代」をテ



毎年大勢の皆さんが受講する「郷土資料館セミナー」

マとして、^{きおろし}木下街道、日露戦争に出征した兵士の軍事郵便、戦前の東葛地方の政治状況、^{ときわだいら}常盤平団地を事例とする大規模団地など、明治～昭和の特色ある歴史事象を数回シリーズで取り上げます。

期間 11月～令和4年1月

②歴史講演会Ⅰ「骨から探る縄文人の食生活(仮題)」

市内の遺跡から発見された人骨を中心に、人骨の成分分析から推定される縄文時代の人々の食生活の傾向に迫ります。

時期 9月～11月頃

③歴史講演会Ⅱ「^{ふすま}襖の下張りに隠されていた歴史(仮題)」

市内の旧家などにあった襖や額などの下張りに利用されていた^{ほご}反古紙には、思わぬ歴史的資料が隠れています。この講座では、この反古紙の取り出し事例と、その資料に記されていた歴史を探ります。

時期 令和4年3月頃

④自然観察会

市域の中で、自然がよく残っている佐津間の大津川流域を訪ね、早春の植物や野鳥などに親しみます。

時期 令和4年2～3月

【史料整理の現場から④】

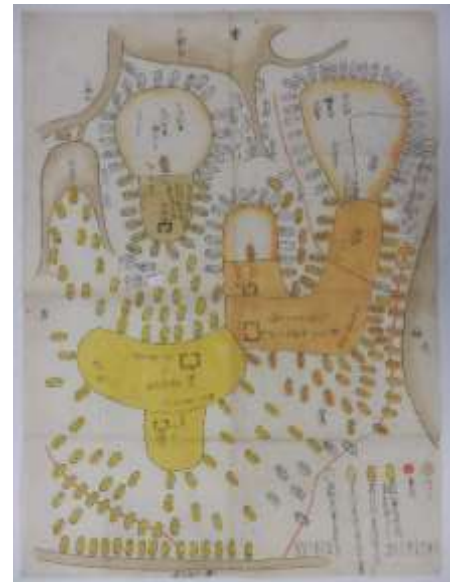
1 枚の牧絵図から

平成30年度に行った鎌ヶ谷地区の旧家の史料調査で、明治期の地租改正時に作成された帳面や絵図面に混じって、江戸時代に幕府が設置した牧場が描かれた絵図が見つかりました。半紙2枚ほどの紙面に、小金牧のうち中野牧（黄色）・下野牧（橙色）・印西牧（薄茶色）の範囲と、各牧に対して役負担を義務づけられている「牧付村」及び役を負担していない「手明村」の位置が示されています。また、野馬捕（のまどり/のまどらえ）時に使用される捕込の位置、各牧の外周、野馬捕の勢子人足（野馬の追込みに動員される村人たち）と思われる人数が書き込まれています。絵図自体に年代等は記されていないのですが、いつごろ、何のために描かれたものなのでしょうか。

同様の絵図は柏市内の旧家にも伝存しており、それらと比較すると凡例部分の文言がやや詳細である点が注目されます。村名を小判型に囲んだ牧周辺の村について、①黄色「中野御牧付ニ而四ヶ所御牧場人足相勤候村々」／②橙色「下野御牧付村々ニ而其御牧場切人足相勤候村々」／③薄茶色「印西御牧付其御牧場切人足相勤候村々」／④白ぬき「御郡役相勤不申手明村々」とあり、①中野牧付の村は4ヶ所の牧場人足を勤め、②下野牧付と③印西牧付の村はその牧場限りの人足を勤めており、④手明きの村は牧場人足を勤めていない旨が記されています。

こうした記載を手がかりに近隣の自治体史等によって関連史料を見てみると、中野牧付の村々から下野牧・印西牧への野馬捕人足の免除を求める願書が寛政12年（1800）～文政11年（1828）の間に、金ヶ作役所（陣屋）や勘定奉行所に宛てて何度も提出されていることが

わかりました。①で4ヶ所の牧場人足というのは、中野牧及び同牧内の御囲、下野牧、印西牧への野馬捕人足のことで、願書と併せて下野・印西両牧最寄の手明村々の名前帳と



見つけた絵図

添えられていることから、当絵図もこれらの願書に付随して作成されたものの写ではないかと推測されます。

また、宝暦12年（1762）に新造された中野牧内の御囲（野馬の品種改良・繁殖等のための施設）が、「日暮御囲」（現在の鎌ヶ谷市くぬぎ山・松戸市松飛台付近。地名等を冠して複数の呼称がありました）として記載され、御囲内の捕込が天明2年（1782）に移転した五助木戸付近に書かれていると思われることから、18世紀後半以降の作成と推定されます。

中野牧付の村は牧の面積に比して村数・人数とも多かったことから、同じ金ヶ作役所支配であり木下道を境に隣接する下野牧に加えて、管轄も異なり場所も離れている印西牧へも、人足を出さなければならなかったようです。

牧付の村は牧に関する様々な御用を勤め、とくに直に接している野付の村（市域の栗野・鎌ヶ谷・軽井沢新田・佐津間・中沢・道野辺の各村を含む）の負担は大きかったと推察されます。現在まで残された1枚の牧絵図からも、その一端が読み取れるのではないかと思います。

鎌ヶ谷市郷土資料館だより 第55号 令和3年6月1日発行 編集・発行：鎌ヶ谷市郷土資料館

住所：〒273-0124 鎌ヶ谷市中央1-8-31 Tel：047-445-1030 Fax：047-443-4502

メール：kyodo@city.kamagaya.chiba.jp

ウェブサイト：http://www2.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo_2/index.html